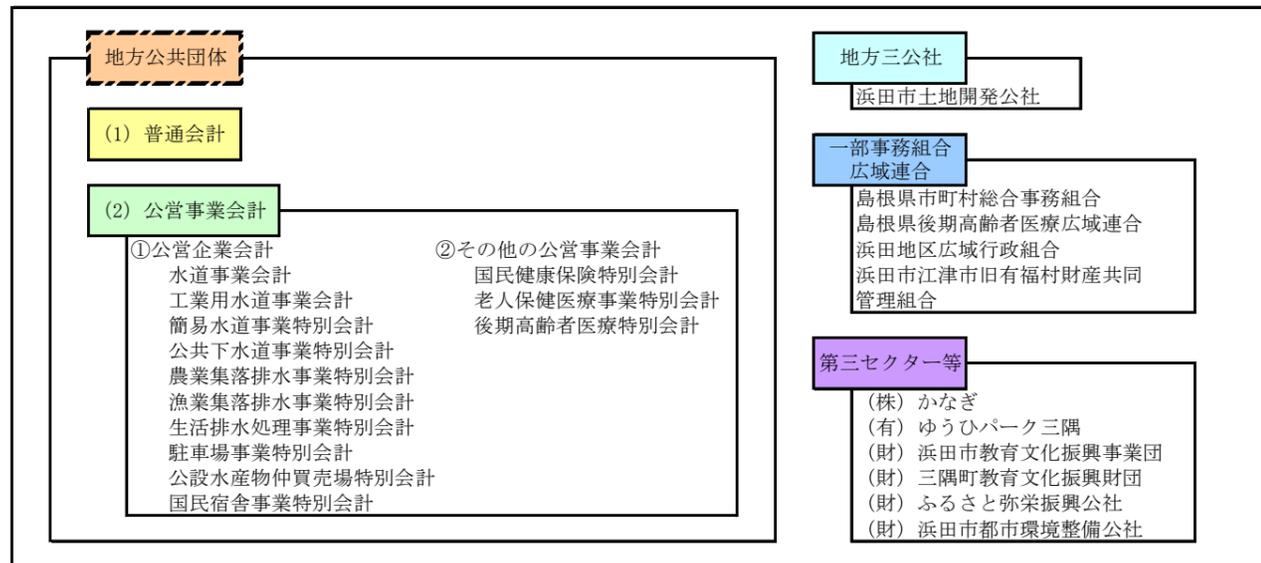


## 連結財務書類とは

連結事務書類とは、普通会計のほかに、浜田市を構成する企業会計、その他の特別会計や浜田市と連携協力して行政サービスを実施する関係団体・法人を一つの行政サービス実施主体とみなして作成する財務書類のことで、

## 浜田市の連結の範囲



## (1) 連結貸借対照表

浜田市の平成21年度の連結貸借対照表は、次のとおりです。普通会計単体に対して、資産が621億円増加し、2,303億円となります。負債は306億円増加し、860億円となります。純資産は315億円増加し、1,443億円となります。

借方	貸方
<b>&lt;資産の部&gt;</b>	<b>&lt;負債の部&gt;</b>
浜田市と連結対象団体が所有し、行政サービス提供に利用される財産、売却可能な財産及び将来回収する資産など (内訳)	<b>将来世代の負担で返済する債務</b> 地方債や将来支払われる職員の退職金など
<b>公共資産</b> 道路・公園・庁舎など (水道事業の管渠などを合算)	<b>負債合計</b> 860億円
2,094億円	<b>&lt;純資産の部&gt;</b>
<b>投資等</b> 基金・貸付金・出資金など	国または県の負担及び現世代・過去世代が既に負担した分
112億円	<b>純資産合計</b> 1,443億円
<b>流動資産</b> 現金・財政調整基金など うち資金 78.2億円	<b>負債及び純資産合計</b> 2,303億円
97億円	
<b>資産合計</b> 2,303億円	

## (4) 連結資金収支計算書

連結資金収支計算書は、次のとおりです。普通会計単体に対比、経常的収支額が8.6億円増加し、公共資産整備収支額が0.8億円減少し、投資・財務的収支額が5.8億円減少します。期末資金残高については、73.8億円増加し、78.2億円になります。なお、連結財務書類の資金とは、普通会計における現金預金(流動資産)です。

期首(平成20年度末) 資金残高 83.2億円

経常的収支	88.4億円
公共資産整備収支	△18.0億円
投資・財務的収支	△74.9億円
繰上充用金増減額他	△0.5億円

期末(平成21年度末) 資金残高 78.2億円

## (3) 連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書は、次のとおりです。普通会計単体に対して、財源の調達は85億円増加します。純資産残高は、315億円増加して1,443億円になります。

期首(平成20年度末) 純資産残高 1,447億円

<b>当期変動高</b>	<b>△4億円</b>
(内訳)	
純経常行政コスト	△377億円
財源の調達	370億円
その他	3億円

期末(平成21年度末) 純資産残高 1,443億円

## (2) 連結行政コスト計算書

連結行政コスト計算書は、次のとおりです。普通会計単体に対して、「人にかかるコスト」は12億円、「物にかかるコスト」は36億円、「移転支出的コスト」は162億円、「その他のコスト」は14億円それぞれ増加した結果、経常行政コストは224億円増加し、523億円になります。一方で、経常収益は136億円増加し、146億円になります。その結果、純経常行政コストは88億円増加し、377億円になります。

経常行政コスト(A) 523億円

- (内訳)
- ・人にかかるコスト 73億円  
職員の給与・退職手当など
  - ・物にかかるコスト 137億円  
光熱水費・修繕費・減価償却費など
  - ・移転支出的コスト 291億円  
社会保障給付・各種団体への補助金・他会計への繰出金など
  - ・その他のコスト 22億円  
地方債の利子など

経常行政収益(B) 146億円

施設の使用料や手数料など、行政サービス提供の対価として得られた財源です。

純経常行政コスト 377億円

(A) - (B)  
経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。